地域と
共生する
FFG

世界自然遺産20年目を迎える島 屋久島 世界自然遺産登録に向け歩みを進める奄美群島

鹿児島県環境林務部自然保護課

1993年（平成5年）に屋久島が日本で初めて世界自然遺産に登録されてから、今年で20年。この節目の年に、奄美群島の世界自然遺産登録へ向けた取り組みは新しいステージへと踏み出しました。

縄文杉（屋久島）

金作原（奄美大島） 亜熱帯照葉樹の原生林

百合ヶ浜（与論島）

はじめに

鹿児島県は、総面積約9,189㎢に上る県土が、南北600㎞にわたって広がっており、幅広い気候帯を背景としたさまざまな生態系が存在しています。

日本で最初の世界自然遺産に登録された屋久島。そして新たな候補地となっている奄美群島。県土の27％を占める離島は、島ごとに独自に進化した多くの生物が生息する等、彩り豊かで個性的な自然を有しています。

奄美群島の世界自然遺産登録が実現すれば、鹿児島県は複数の世界自然遺産を有する日本唯一の県となります。

屋久島

●日本初の世界遺産に

１９９３年（平成5年）12月、屋久島は白神山地（青森県、秋田県）とともに、我が国で初めての世界自然遺産に登録されました。

樹齢数千年の屋久杉をはじめとする独特の景観や、亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生（ある場所に生息している植物の集団）の垂直分布等、貴重な自然環境・自然資源が評価されました。

●世界遺産登録の効果

屋久島が世界遺産になって20年。世界遺産登録は、屋久島に様々な恩恵をもたらしました。

世界遺産登録時20万人だった1年間の入島者は、30万人台にまで増加し、その増加分のほとんどが観光客と推測されます。登山者も、この10年あまりで5万人から10万人に倍増し、縄文杉登山に限れば、約3倍に増加しました。

観光客の増加は、宿泊や運輸といった観光産業の発展と就労機会の確保に繋がり、全国の離島で大きく人口が減少する中、屋久島はこの20年間人口を維持するなど、大きな恩恵を受けています。

●屋久島の魅力

屋久島は、周囲１３２㎞のほぼ円形の島で、島の大半は、九州最高峰の宮之浦岳（1，９３６m）をはじめとする山岳部で占められていることから、「洋上アルプス」と呼ばれています。

①神秘的な森

海岸から奥岳（島中心部に位置する高峰の総称）に至る約２，０００mの標高差の中に、亜熱帯から冷温帯までの生態系を有し、多様な動植物を見ることができる屋久島は、まさに、南北３，０００㎞の日本列島の自然を凝縮した島だと言えます。

また、樹齢１，０００年以上の杉を「屋久杉」と呼んでおり、標高７００mから1，４００m位までに自生しています。中でも有名な「縄文杉」は、一説には樹齢７，０００年を超えるとも言われ、屋久島で現在確認されている最大の屋久杉です。「縄文杉」までは往復10時間の行程ながら、その圧倒的な迫力と神秘的な雰囲気に魅了され、訪れる人があとを絶ちません。

清流と美しい苔が印象的な原生林「白谷雲水峡」も人気のスポットです。映画「もののけ姫」の森のモデルとなったことで、一躍有名になりました。

②水の循環

屋久島には、「1ヵ月に35日雨が降る」と言われるほど多くの雨が降ります。高い山々に吹く湿った海風が山肌に沿って駆け上がり、上空で冷やされることで雨雲になり、雲から降った雨は森に水を蓄え、滝を駆け下り、川を流れ、また黒潮の海へと帰っていきます。

豪快に流れ落ちる「千尋の滝」や「大川の滝」、豊かな水をたたえる「安房川」などもまた、屋久島の魅力のひとつとなっています。

島の西端の入り江に広がる美しい海岸「永田いなか浜」は、北太平洋最大のアカウミガメの産卵地としても知られています。

●今後の取り組み

世界自然遺産登録により、山岳部への登山者が急増したことで、植生荒廃やトイレのし尿処理等、新たな課題も生まれています。

屋久島では、山岳部の環境保全の為、一口５００円の「山岳部保全募金」の協力を登山者に対して呼びかけていますが、まだまだ不足している状況です。美しい屋久島の自然を守り続けていく為に、募金率向上に向けた仕組みづくり等を検討しているところです。

●20周年記念イベント

今年の11月23日（土）には、屋久島で世界自然遺産登録20周年記念イベントを予定しています。

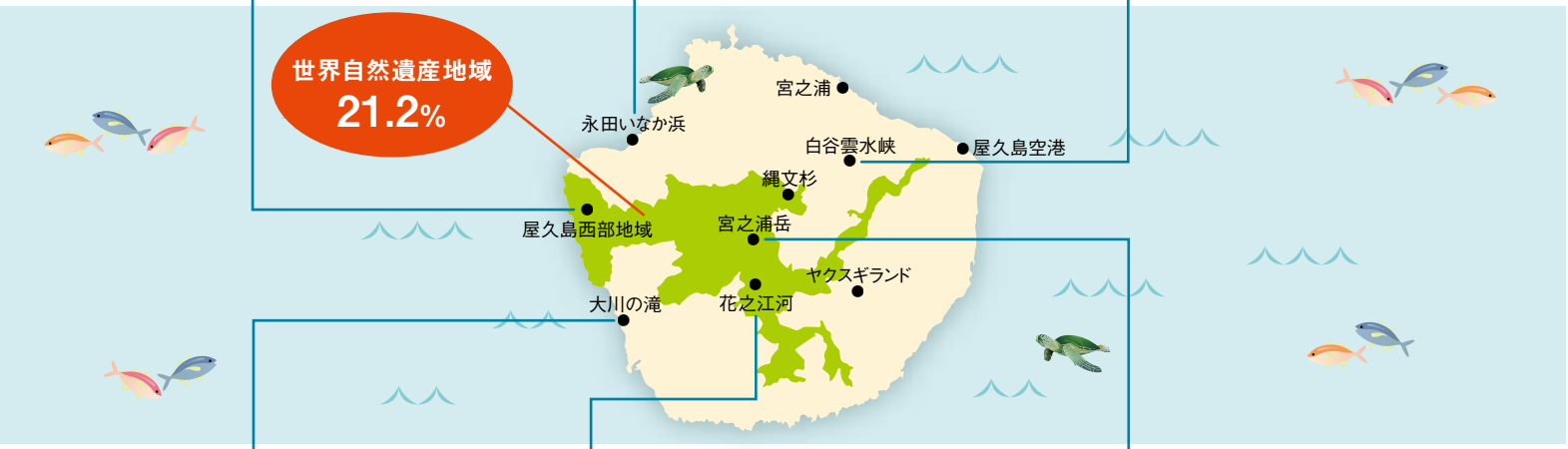
20年という節目の年を迎え、今後の屋久島の環境保全のあり方を問い直す機会となります。

詳しい日程等は、今後、鹿児島県のホームページ等でお知らせする予定ですので、是非、ご参加ください。

▲屋久島西部地域

▲永田いなか浜（写真提供:屋久島自然保護官事務所）

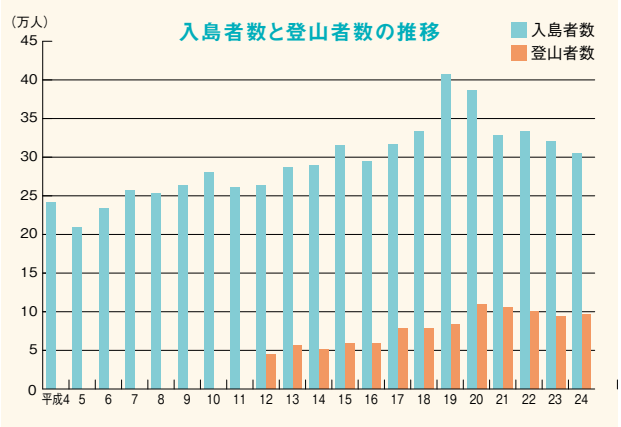
▲白谷雲水峡（しらたにうんすいきょう）



▲大川（おおこ）の滝

▲花之江河（はなのえご）（©K.P.V.B）

▲宮之浦岳（©K.P.V.B）



奄美群島

●これまでの経緯

トカラ列島と沖縄諸島に挟まれた、奄美大島をはじめとする島々からなる奄美群島。

２００３年（平成15年）、環境省と林野庁による「世界自然遺産候補地に関する検討会」において、奄美群島を含む琉球諸島が世界自然遺産の登録基準を満たす可能性が高い地域として、「知床」、「小笠原諸島」とともに選定されました。

選定された3候補地のうち、「知床」は２００５年（平成17年）、「小笠原諸島」は２０１１年（平成23年）に既に世界自然遺産として登録されています。

国は「奄美・琉球」が特定の地域にしかいない固有種・希少種の生息・生育地になっていること等を評価し、今年1月末に世界遺産暫定一覧表（国が今後推薦を考えている物件の一覧表）への記載を決定し、同年2月、ユネスコに関係文書を提出しました。

今後、国立公園の指定など保護担保措置の導入や希少野生生物の保護対策の強化を経て、正式に世界自然遺産として推薦していくことになります。

●奄美群島の魅力

①世界的な価値

奄美・琉球は、大陸と陸続きになったり、離れたりを繰り返して、多くの島が散らばる現在の姿になりました。世界の亜熱帯地域に比べると例外的に雨が多いこの地域には、豊かな亜熱帯照葉樹林が広がり、亜熱帯と温帯両方の生物が数多く生息しています。

このような地理的特性や気候等により、太古の昔、大陸から渡ってきた生物がそれぞれの島々で独自の進化を遂げており、この地域にしかいない固有種や希少種の重要な生息地・生育地となっています。

また、渡り鳥や回遊するクジラ類等の移動の中継地、海鳥の重要な繁殖地、ウミガメ類の産卵地として地球上を広く移動する生物の重要な生活圏ともなっています。

▲オットンガエル
・奄美大島と加計呂麻島に生息
（写真提供:奄美自然保護官事務所）

▲オビトカゲモドキ
・徳之島に生息
・県希少野生動植物及び天然記念物

▲ルリカケス
・奄美大島、加計呂麻島、請島に生息
・鹿児島県の県鳥に指定

▲アマミノクロウサギ
・奄美大島と徳之島に生息
・国の特別天然記念物

（写真提供:常田 守氏）

②「シマの宝」を「世界の宝」へ

美しい珊瑚礁や鮮やかな熱帯魚に彩られた青い海、白い砂浜。島唄や大島紬（つむぎ）、黒糖焼酎に代表される個性的な伝統・文化等、奄美群島ならではの魅力はほかにも数多くあります。

貴重な動植物の生態系を守りながら、今後も奄美群島が魅力ある地域であり続け、その魅力を世界に発信する為に、世界自然遺産への登録が望まれます。

これまで受け継がれてきた「シマの宝」を「世界の宝」として守り続けていかなければならないのです。

終わりに

鹿児島県では、屋久島の20年の歩みや、その他の世界自然遺産地域における登録後の状況なども検証しながら、奄美群島の２０１６年（平成28年）6月の世界自然遺産登録を目指して、国や市町村とともに、取り組みを進めていきます。

世界自然遺産登録への道のり

ユネスコ世界遺産センターへ
ユネスコの世界遺産暫定一覧表記載の為の
関係文書を提出（平成25年2月）

↓

国立公園に指定

↓

ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出

↓

国際自然保護連合の現地調査

↓

世界遺産委員会の審査

↓

世界遺産リストへ登録（県の目標:平成28年6月）

「奄美・琉球」の世界自然遺産登録へ向けた取り組み

1 法律による保護

多くの固有種や希少種が生息・生育している亜熱帯照葉樹林を守るため、国立公園の指定に向けての協議・検討が進められています。

2 遺産候補地としての価値の維持

希少野生生物を保護する為に、外来種であるマングースや野生化ヤギ等の駆除対策、希少植物の盗採対策、希少野生動物の交通事故対策等を実施しています。

3 住民の理解と協力

地域住民の方々に国立公園や世界自然遺産、奄美の自然等への理解を深めていただく為、勉強会や公開セミナーの開催、パンフレットの配布等による普及啓発に努めています。

▲亜熱帯照葉樹林（湯湾岳）

▲屋鈍ビーチ（宇検村）

▲大島海峡（瀬戸内町）

▲マングローブ原生林（奄美市住用）